

令和6年度

# 事業計画書

令和6年4月1日から

令和7年3月31日まで

公益財団法人古紙再生促進センター

## 令和6年度事業計画

我が国の紙リサイクルが大転換期の渦中にある中、当センターは2050年のカーボンニュートラルの達成や循環経済の実現に向けて、紙リサイクルの環境・経済・社会側面の統合的向上や全体最適を念頭に置いた事業展開を一層心掛けていくことが求められます。創立半世紀の節目を迎え、様々なステークホルダーの御意見を踏まえた一連の中長期的な課題の抽出を通じて明らかにしたテーマについて、具体的な対応に繋げていく新たな起点の年とするべく、循環型社会形成に関する連携・協働のつなぎ手として資源循環の促進に向けて努力してまいります。

### 事業計画策定の基本スタンス

- 紙リサイクルを取り巻く諸課題に対して、多様なステークホルダーとの連携や、パートナーシップづくりを通じた対策を講じてまいります。
- 4大事業 ①古紙品質安定対策 ②広報 ③調査研究 ④紙の資源リサイクル安定化対策を軸に、将来の紙リサイクルの構造変化を念頭に置いた事業運営の在り方を追求します。
- 自治体の可燃ごみ削減を通じた脱炭素化の流れの中で、現在ゴミ化、焼却されている古紙をいかに掘り起こし、用途を確保すべきなのか、その実態を詳らかにしてまいります。
- 増加する「雑がみ」、品質低下する「雑誌」の問題について、地区別の将来シミュレーションをベースにした問題提起を行ってまいります。
- 紙リサイクルにおける、GX（グリーントランスフォーメーション）、DX（デジタルトランスフォーメーション）について、今後の事業化を念頭に置いたテーマ設定に向け、基礎調査に取り組みます。
- 創立50周年記念事業であるシンポジウムや中長期的課題の公表などを通じてステークホルダーの皆様と将来像を共有し、今後の対応を考える風土、機会づくりを心掛けます。

## 1. 古紙品質安定対策事業

古紙品質の維持向上を図るため古紙品質調査及び情報共有を継続し、「個別品質対策」では必要に応じ、関連団体との連携を図ります。

### (1) 古紙品質調査事業

全国の製紙メーカーの協力の下、古紙開梱組成調査を実施します。

### (2) 古紙品質情報ネットワークの運用

全国展開した古紙品質情報ネットワークを通じ、製紙工場での品質トラブル情報を他社工場、古紙問屋へ伝達、情報共有を図ります。

### (3) 個別古紙品質対策

4大禁忌品である「昇華転写紙」、「感熱性発泡紙」、「ロウ引き段ボール」及び「臭いのついた紙」の混入防止等、禁忌品対策を実施します。また、一般住民への啓発など必要に応じ、地方自治体を含め関係団体との連携を図ります。

## 2. 広報事業

地方自治体職員や未来の紙リサイクル促進を見据えた小中学生を対象に啓発や情報発信に努め、対面型・オンライン型のハイブリッド事業により、従来カバーできなかった地域での事業拡大を進めます。

また、『全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト』については、継続して応募点数の増加等、さらなる内容の充実を図ります。

なお、当センター創立50周年を迎え、記念誌を作成し、記念イベントを開催いたします。

### (1) 紙リサイクル啓発事業

#### 1) 紙リサイクル研修会

地方自治体と連携し、集団回収実施団体代表者や事業者等を対象に紙リサイクルに関する研修会を対面型及びオンライン型にて実施します。

また、全国自治体の新人廃棄物担当者を対象にオンラインでの研修会を実施します。

#### 2) 紙リサイクル出前授業

小学生を中心に、対面型及びオンライン型での出前授業を積極的に拡大します。また、講師の確保など授業提供体制の拡充を図ります。

#### 3) 地域広報活動

各地域にて開催される紙リサイクルイベントへの参加等、紙リサイクル啓発のための広報活動を実施します。

4) 紙リサイクルセミナー

毎年開催の紙リサイクルセミナーに替わり、当センター創立50周年イベントとして、記念シンポジウムを10月16日（水）に開催する予定です。録画配信等も通じて、広くステークホルダーに周知します。

5) 啓発資料等の配布

紙リサイクル啓発のためのリーフレット等を提供するとともに、会報を発行し業界関係者・自治体等に配布します。また、隔年発行の古紙ハンドブックの準備を行います。

6) 紙リサイクルコンテスト

16回目となる「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2024」を通じ、作文・ポスターの優秀作品選定・表彰、応募点数の増加等、内容の充実に努めます。

7) 未利用古紙掘り起こし・品質確保等の啓発 他

SDGsと紙リサイクルやセンター事業との関わりについて周知活動を継続します。また、地方自治体からの要望対応等、自治体との関係強化を継続します。

(2) 紙リサイクル普及事業

1) 顕彰制度

紙リサイクル推進に貢献されてきた集団回収実施団体に対する顕彰を継続します。

2) グリーンマーク

古紙利用製品の認識向上及び利用拡大を図るため、グリーンマークの普及に努めます。

3. 調査研究事業

国内では古紙発生構造の変化や、各地方自治体のリサイクル変化等につき調査を行い、海外では製紙・古紙業界関係者との交流や調査事業の在り方を検討します。

(1) 国内資源化調査

1) 雑誌・雑がみ・オフィス古紙調査

雑誌及び雑がみの流通実態の把握に努め、将来的な対応に向けたシナリオづくりを目指します。また、一般消費者を対象にしたオンラインでのリサイクル意識調査を実施します。

2) 地方自治体古紙関連施策調査

全市区町村（約1,700）に対し、古紙回収量や紙リサイクル施策の変化等について調査を実施します。

3) 新技術に対応した紙リサイクル促進に関する調査研究

リサイクル性の観点で、環境対応の紙・プラ複合素材を注視していきます。また、

マテリアルリサイクルを念頭に置いたパッケージのあり方についての議論や情報提供を開始します。

4) 未利用古紙の回収ネットワーク構築

未利用古紙の実状や回収の課題を把握します。

5) 外部組織とのパートナーシップ

紙製容器、牛乳容器関連協議会への情報提供を行うとともに、中長期課題対応に向けて、新たな観点からの紙リサイクルに関わるステークホルダーや組織、研究機関とのパートナーシップづくりに着手します。

(2) 海外市場調査

国際資源循環の変化に対応し、海外の製紙・古紙業界関係者との古紙をキーワードとしたオンライン交流を検討・実施します。

(3) 統計調査

国内外における古紙需給統計等を収集し取りまとめを行い公表します。

#### 4. 紙の資源リサイクル安定化対策事業

少子高齢化に伴う人口構造変化、都市集中・地方過疎化、デジタル化が進み、世界的にも循環経済化が進む中、国内外の中長期的な課題に向けて活動します。

(1) 古紙余剰対策事業

1) 紙リサイクル維持対策（備蓄事業）

紙リサイクルシステム維持のため、余剰が生じた場合の対策を講じます。

(2) 紙の資源リサイクル安定化施策事業

1) 海外調査研究

持続的な紙リサイクルに向けて、海外の古紙カーボンクレジット化や古紙自動選別機等に関する情報収集及び世界の段ボール梱包製品の移出・移入調査に向けた基礎調査を開始します。

2) リサイクル方法の調査研究

古紙の製紙原料以外の用途に関する調査を実施します。

3) 紙リサイクルの維持

中長期的な課題の抽出を通じて明らかにしたテーマについて、具体的な対応案の策定を行うとともに、紙リサイクルにおけるDX・GX推進モデルづくりを検討します。

#### 5. その他の事業（地区委員会活動事業）

全国8地域の委員会において、各地域の独自性を考慮した研修会等の事業を実施します。

#### 6. 公益目的事業以外のセンター運営活動

業務委員会、国際委員会、家庭紙委員会、各地区委員会においては、紙リサイクルシステム維持等に向けて、定期的な紙リサイクルに関する意見交換を通じて、円滑なセンター運営を心がけ、一層の情報発信に努めます。